

【子育て支援事業】

**学校でも家でも塾でもない「子ども第三の居場所」
拠点数拡大に向けて全国の市区町村を募集
拠点開設・運営に最大5,000万円を助成**

B&G財団（東京都港区・会長前田康吉）は、日本財団と連携し、2018年度から子育て支援事業として「子ども第三の居場所」の拠点設置および運営支援に取り組んでいます。2022年7月末時点で、全国122拠点で運営されている中*、2025年までに500拠点到達することを目標としており、9月30日（金）まで全国の市区町村を対象に2023年度に拠点を新たに開設していただける自治体の募集を行い、8月1日（月）より設置意思確認書を受け付けます。



「子ども第三の居場所」は、子どもたちが安心して過ごせる環境で、自己肯定感、人や社会と関わる力、生活習慣、学習習慣など、将来の自立に向けて生き抜く力を育成することを目的に、学習支援や食事の提供、野外活動など、様々な体験機会を提供している、学校でも家でも塾でもない、新たな子どもの居場所です。家庭環境や地域のつながりが希薄化する中で孤立してしまう子どもたちが少なくないことが問題となっています。そのような中、これまでに「子ども第三の居場所」導入した自治体では、課題を抱える子どもたちに対して直接的な支援が可能になった、家庭のニーズに応じた支援を展開していきやすい、学校などの関係機関と緊密な連携体制により保護者にとっても子育ての課題解消につながっているといった成果が感じられています。

今回募集するのは、2023年4月1日から2024年3月末までに新規で「子ども第三の居場所」事業を運営する全国の市区町村（すでに設置している市区町村も含む）で、拠点の設置に向けた整備費や運営費等について上限5,000万円の助成を行います。詳細はB&G財団公式サイト https://www.bgf.or.jp/activity/daisan-ibasho/20220428_boshu2023.html をご覧ください。

*B&G財団はこのうち16自治体、19カ所の「子ども第三の居場所」の設置、運営を支援しています。

■「子ども第三の居場所」拠点について

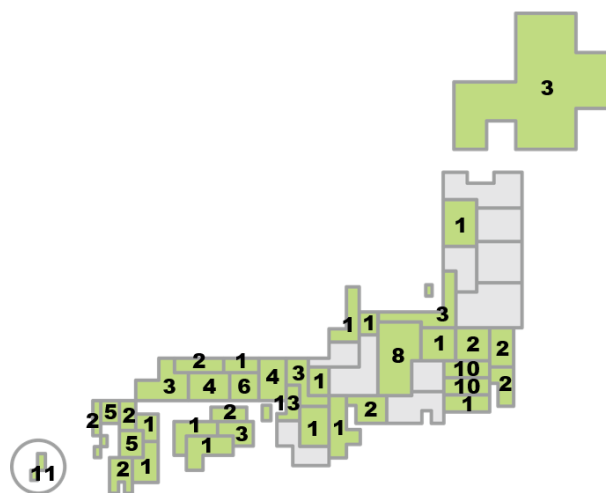
【拠点数】 122拠点（2022年7月末時点）

※開設準備57拠点、2022年度末までに179拠点開設予定

展開モデル	拠点数	内容
常設ケアモデル	42	週5日以上開所し、課題を抱える小学生一人ひとりに、手厚いスタッフ体制のもとで、学習支援や基本的な生活習慣を身につけるための生活支援、豊かな体験機会の提供等を行う
学習・生活支援モデル	19	既存の学習支援事業において、課題を抱える小学生を中心とする子どもを対象に、週3日以上開所し、学習支援に加えて、基本的な生活習慣を身につけるための支援などを行う
コミュニティモデル ※B&G財団では「コミュニティモデル」の募集は行いません。	61	地域の子どもたちが気軽に立ち寄れる居場所を週3日以上開所し、地域の人々との交流を通じて人と関わる力や自己肯定感を育むとともに、課題を抱える子どもの早期発見や見守りを行う

【全国拠点分布状況】

都道府県	拠点数	所在地
北海道	3	東神楽町（2カ所）、積丹町
秋田県	1	秋田市
新潟県	3	燕市、胎内市、新潟市
長野県	8	長野市、大町市、御代田町、諏訪市、松川町、伊那市、佐久市、軽井沢市
石川県	1	穴水町
千葉県	2	山武市、木更津市
茨城県	2	笠間市、つくば市
栃木県	2	大田原市、芳賀町
群馬県	1	みどり市
埼玉県	10	戸田市、和光市、嵐山町、さいたま市（3カ所） 横瀬町、久喜市、三芳町、入間市
東京都	10	渋谷区（2カ所）、大田区、清瀬市、江戸川区、 豊島区、荒川区、調布市、青梅市、多摩市
神奈川県	1	横浜市
愛知県	2	長久手市、犬山市
富山県	1	高岡市
三重県	1	伊勢市
京都府	3	南丹市、京都市（2カ所）
奈良県	1	天理市
滋賀県	1	彦根市
大阪府	13	箕面市（2カ所）、摂津市、泉佐野市、 高槻市、大阪市（6カ所）、寝屋川市、堺市
兵庫県	4	尼崎市（3カ所）、明石市
岡山県	6	備前市、美作市（3カ所）、奈義町、笠岡市
広島県	4	尾道市（2カ所）、廿日市市、大崎上島町
徳島県	3	鳴門市（2カ所）、徳島市
香川県	2	丸亀市（2カ所）
愛媛県	1	今治市
高知県	1	須崎市
鳥取県	1	鳥取市
島根県	2	雲南市、益田市
山口県	3	宇部市、下関市、萩市
福岡県	2	久留米市、遠賀郡
佐賀県	5	唐津市（3カ所）、基山町、佐賀市
長崎県	2	大村市、長崎市
熊本県	5	玉名市、大津町、熊本市（3カ所）
大分県	1	杵築市
宮崎県	1	宮崎市
鹿児島県	2	和泊町、知名町
沖縄県	11	うるま市（3カ所）、沖縄市（2カ所） 宜野湾市、本部町、浦添市（3カ所）、那覇市



「子ども第三の居場所」とは

「子ども第三の居場所」は、すべての子どもたちが将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的として、日本財団が中心となって2016年より全国に開設、B&G財団では2018年度から本事業に着手しています。「子ども第三の居場所」では、特にひとり親世帯や親の共働きによる孤立や孤食、発達特性による学習や生活上の困難、経済的理由による機会の喪失など、各々の置かれている状況により困難に直面している子どもたちを対象に放課後の居場所を提供し、食事、学習習慣・生活習慣の定着、体験機会を提供しています。同時に、学校や地域、専門機関と連携し、「誰一人取り残されない地域子育てコミュニティ」のハブとしての機能を担っていきます。現在全国に122ヶ所設置され2025年度までに全国500拠点の開設を目指しています。

(2022年7月末現在)



子ども第三の居場所
ロゴ

＜本件に関する報道関係からのお問合せ先＞

「子ども第三の居場所」PR事務局

担当：木村・大塚

TEL：080-5471-6062（木村）080-5896-5971（大塚）

E-mail：kodomo3_pr@prk.co.jp

＜本件に関する自治体からのお問合せ先＞

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（B&G財団）

担当：企画部 企画課 美濃越・桐ヶ谷

TEL：03-6402-5311 E-mail：kikaku@bgf.or.jp